

様式第1号(第6条関係)

協働事業に関する提案書

令和5年2月28日

(あて先)狭山市長

団体名 一般社団法人 mama's community

所在地

代表者名 李 亜民(リアミン)

次のとおり、協働事業に関して提案します。

| | |
|------------|---|
| 1 提案する協働事業 | 市民提案型協働事業 |
| 2 事業名 | にじいろ体操教室 |
| 3 事業期間 | 令和5年4月1日から令和6年3月31日 |
| 4 事業種別 | 単年度事業 |
| 5 事業予算 | 総額 380,000 円(内補助金申請額 300,000 円) |
| 6 事業概要 | 障害を持つ子やグレーゾーンと呼ばれる子とご家族、きょうだい児が共に通える体操教室やイベント開催。 現状、障害を持つ子、グレーゾーンの子が安心して通える習い事の受け先がない。また親やきょうだい児の発散場所やネットワークも情報交換の場として必要なため。 |
| 7 希望する担当課 | 障がい者福祉課 |
| 8 添付書類 | <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業に関する企画書(様式第2号) <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業収支予算書(様式第3号) <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業実施スケジュール(様式第4号) <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業提案団体概要書(様式第5号) |

協働事業に関する企画書

団体名 一般社団法人 mama's community

| | |
|---------------|--|
| 1 事業名 | にじいろ体操教室 |
| 2 事業の詳細 | 障害を持つ子やグレーゾーンと呼ばれる子とご家族、きょうだい児が共に通える体操教室やイベント開催。 |
| 3 実施体制 | 毎月1～2回(各回45分) 団体メンバーが中心となって運営する。 また、障害児やグレーゾーンと呼ばれる子たちの親御さんにスタッフとして参加を依頼する。 |
| 4 役割分担 | 【提案団体の役割】 ・体操教室 ①からだの仕組み ②療育に関する遊び ・解決ネットワーク作り ①受入れ先を作る ②障害を持つ子、診断が出ていないグレーゾーンと呼ばれる子とその親御さん、きょうだい児ならではの悩み共有、情報交換の場作り |
| | 【市の役割】 狭山市の障害児の人数把握 支援学級、子ども相談窓口へ広報 |
| 5 協働の効果 | 障害を持つ子、グレーゾーンの子が安心して通える習い事の受入れ先の増加。親やきょうだい児の発散場所やネットワークも情報交換の場として活用でき、孤立化を防止。障害を持つ子やグレーゾーンと呼ばれる子とご家族、きょうだい児が共に通える体操教室やイベントを提供し、障害に対する周囲の理解を深められる。 |
| 6 事業のアピールポイント | ママコミュ体操教室は前身から約8年間の実績あり。 去年、一昨年とあんずの会(狭山市ダウン症児の会)の体操教室を3日間開催。 さやマンセ(ママコミュニティーネットワーク作り)2017年狭山市との協働事業2年間実施。 療育も感覚の積み重ねであり体操でも感覚統合を養う。青い実学園に通うお母さんが「青い実学園でやっていることが同じ！」との声がありました。 障害のあるお子さんを持つお母さんたちにスタッフとして参加してもらおう。 女性働き方改革への先駆者団体となる。 |